

ヒューマン・セントリックな ICT時代を見据えて



富士通株式会社
代表取締役会長 兼 社長
間塚 道義

あけましておめでとうございます。

皆様方には平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

—昨年末からの「100年に一度」といわれる市況悪化もさすがに底を打ち、景気も復調の兆しが出始めています。ただ、急激な円高の進行等、先行き不透明感もあり、今年もしばらくは厳しい状況が続くと覚悟しておりますが、ぜひ、今年は「攻め」の気持ちをもって、経営の舵取りをしていきたいと考えております。

昨年の経済危機を背景に、変化の激しい経済環境をどう生き抜くかを考えたときに、経営者の皆様にとって、改めて経営に果たす情報や通信に関する技術 (ICT) の重要性の認識が高まっているのではないのでしょうか。

そのような中で、経営者から見たICTの大きな課題は、ICT投資の70%以上が、現行システムの維持・運用に費やされ、新規開発への投

資が進まないことです。この現状を打破するために、クラウドコンピューティングやSaaS^①へ大きな期待が集まっていると考えております。

ただ、クラウドやSaaSには、大きな期待があるものの、セキュリティや安定稼働に不安をお持ちのお客様の声も多くあります。富士通は、多くの社会システムで培った高信頼なプロダクトやサービスの技術・ノウハウを結集して、企業のお客様が、安心してご利用いただけるトラステッドなクラウドサービスをご提供していきます。また、お客様の業務特性に応じて、エンタープライズクラウドやプライベートクラウド、そしてパブリッククラウドといった使い分けが必要であり、さらにはクラウド化以前に、お客様資産の見える化も必要です。富士通は、お客様の資産の見える化、業務特性に応じたクラウド適用の指針作りから、それらを連携したハイブリッドで最適なクラウド環境の実現を通して、お客様におけるICTのインフラの革新に取り組んでまいります。

もう一つの経営者から見た大きな課題は、企業の重要な資産である「情報」をどう有効活用できるかだと考えております。

企業内の情報システムがサイロ化されていて、それを打破するために、SOA^②によるシステム再構築等が提唱されていますが、現実には、膨大な既存システムの再構築には躊躇されているお客様が多いのも事実です。

個々の各業務システムの利用者にとっては、システムがサイロ化していること自体は、それほど意識することはないのですが、経営者の視点で、複数の業務システムに散在する情報を横断的に連携させて、経営の問題点を把握しようとする、システム間でのデータ形式の相違等、サイロ化の課題が顕在化してきます。また、このような変化の激しい時代には、損益計算書や貸借対照表等のマクロな集計データだけでなく、明細レベルのリアルタイムのミクロな情報を経営者から現場に至るまで共有して、素早いアクションを起こすことが求められています。

富士通では、異なるシステムが混在し、明細書のデータ形式が異なる場合においても、XML^③技術と、オンメモリデータ展開による高速処理技術を使って、各業務システムの明細レベルのデータを統合的に集約することで、システム横断的な情報活用を実現するユニークなXML大福帳 (Interstage XML Business Activity Recorder) の提供を開始しました。既存の業務システムをそのままに、新しいデータの活用方法、新しいシステム開発の在り方をお客様にご提案してまいります。このような製品提供を通じて、富士通は「情報活用」のソリューション提供に一層注力してまいります。

振り返ってみれば、富士通が“Everything on the Internet”のメッセージを発信してから、この10年で、ICTは、コンピュータ・セントリックからネットワーク・セントリックへと大きく変貌しました。そして、この先にあるものを、富士通は、ヒューマン・セントリック (人間中心) なICTの時代だと捉えています。

企業活動や生活の場、そして社会の様々な場に浸透する多様な情報端末やセンシング技術、高速大容量の無線ネットワーク技術が、いままで見えなかった人の行動やものの動きを見える化します。これらにクラウドがもたらすコンピューティングパワーと高度なデータ解析技術を加えることで、リアルとバーチャルをつなぐ精緻でダイナミックな写像モデルをつくり上げます。そして、企業活動はもとより、医療、地球環境、エネルギー問題といった社会全体の課題に対して新しい発見をし、高度なヒューマン・インターフェースにより、多くの人にICTの恩恵を提供できる人間中心の豊かな社会が実現すると考えております。

富士通は、このような厳しい経済環境にあるからこそ夢を持って、お客様と共にヒューマン・セントリックなICTの時代を見据えて、ICTの新しい利活用の開拓に積極的に取り組んでまいります。

最後になりますが、本年も、皆様には一層のご支援、ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願いして年頭の挨拶とさせていただきます。

① SaaS: Software as a Serviceの略。ソフトウェア等のアプリケーション機能をネットワーク経由で、サービスとして提供すること。

② SOA: Service-Oriented Architecture (サービス指向アーキテクチャー) の略。システム全体を「サービスの集まり」と捉えたシステム構築の考え方。

③ XML: eXtensible Markup Languageの略。文書やデータの意味、構造を記述するための拡張可能なマーク付け言語のこと。XML大福帳については、富士通ジャーナル2009 11-12月合併号をご覧ください。